

## 要旨

本稿は、『花供養』の書誌情報をまとめたものである。本書は、近世後期の京都俳壇および全国俳人の動向を天明六年以降、明治二年までにわたって網羅的に知ることが出来る資料である。また、書誌情報から歴代の芭蕉堂堂主と『花供養』刊行との状況を明らかにすることができ、堂主を援助する人物も知られた。本研究会は、現存する『花供養』を調査し、本文を収集し、全体を把握することに努めた。併せて、文学史の空白部分を補うことを目的としている。

『花供養』の一部は、2009年度末に、アート・リサーチセンターのWEBサイトで公開の予定である。

## abstract

“Hanakuyo” is a series of Haiku books which were published almost each year from 1786 to 1869 in Kyoto to cherish Matsuo Basho's memory. We have surveyed most of collection in Japan, and recognize that 54 volumes were published during the period. In this report, we represent the basic bibliography for each volume. The aim of our project is to find new understanding on the literary history of Haiku at the last part of Edo era through studying “Hanakuyo”. We are also making transliteration for all of them.

By the end of 2009 school year, we will open the result in the website of Art Research Center.

京都俳諧研究会

竹内千代子 赤間 亮  
小林 孔 松本 節子  
青木 亮人 岸本 悠子

天明四年五月、高桑蘭更は京都東山の双林寺門前に南無庵を設け、芭蕉堂をしつらえた。そして、同六年三月十二日に、桜木の芭蕉像に花をたむけ、俳諧を興行、花供養会を修した。この俳諧興行を巻頭にして、諸国からの奉納発句を集めて、『花供養』が刊行された。現在確認できる『花供養』は、天明六年から明治三年刊本までの五十四冊（但し、天保十四年刊本は上下二冊組みであるが一冊として扱う）である。

この『花供養』は、広く全国の俳人を収録し、天明・寛政・文化・天保以降明治初年までの八十年余りの俳壇を概観するに足るものとなっている。

以下、1 刊行年次、2 編者、3 体裁、4 刊記、5 構成の順で解説し、書誌一覧表を付す。

## 1 刊行年次

『花供養』刊行の時期は、天明六年から明治二年興行、明治三年刊本までである。多くは、三月十二日の花供養会の連句・発句を集めて刊行した年刊句集で、刊行年次は、巻頭の端作り、および序跋年記により確定できる。寛政九年版と天

保十二年版とは年次を記さないが、次に示すように年次を判定した。

寛政九年版は、闌更が堂主の期間中であること、欠本は天明八年と寛政九年のみであるが、刊記に「芭蕉堂蔵板」と明記するのは寛政八・十・十一年であることから、寛政九年版と判定した。また、天保十二年版については、九起が堂主を務めた期間中であること、天保十四年以降にある端作りがなく、それ以前の欠本が十二年のみであることから、天保十二年版と判定した。

次に、年刊句集の体裁に拠らない例がある。二年以上の俳諧興行をまとめて刊行するものである。

- 1 文化八・九年興行、同九年刊行（蒼虬主催）。
- 2 文化十一・十二・十三年興行、同十三年刊行（蒼虬主催）。
- 3 嘉永元年・二年興行、同二年刊行（九起主催）。

俳諧興行・書冊の刊行が確認できない年もある。

- 1 天明八年は、同年一月の大火による休刊と推察される（闌更主催）。
- 2 寛政十二年・文化五年・文化七年・文化十年・文化十四年・文政元年  
（文政十年・文政十二年・天保二年の十七年間分（いずれも蒼虬主催）。
- 3 芭蕉堂堂主の交代期の天保六年から天保九年（蒼虬から朝陽へ）、  
嘉永四年・嘉永五年（九起から公成へ）、明治元年（公成から良大へ）。
- 4 安政二年（公成主催）。

## 2 編者

『花供養』の編者は、堂主が務める花供養会の主催者である。編者は、次のとおりである。

高桑闌更（芭蕉堂二世） 天明六年・同七年・寛政元年～寛政十年

成田蒼虬（芭蕉堂二世） 寛政十一年・享和元年～文化四年・文化六年・

同九年・同十三年・文政十一年・天保元年・  
同四年～同五年

築瀬千崖（芭蕉堂三世） 天保三年

北村朝陽（芭蕉堂四世） 天保十一年

北村九起（芭蕉堂五世） 天保十二年～嘉永三年

河村公成（芭蕉堂六世） 嘉永六年・安政元年・安政三年～慶応三年

内海良大（芭蕉堂七世） 明治三年

花供養会は、原則として堂主が主催するのであるが、蒼虬の堂主期間のうち、文化十二・十三年、天保三年は特別である。文化十二年は得終尼が主催している。また、文化十三年については、千崖も蒼虬とともに亭主（脇句）を務め、それぞれの俳諧興行二巻が収められている。通例では主催者の俳諧興行一巻のみ入集するが、不在がちな堂主蒼虬が留守を預る千崖を尊重した結果であろう。天保三年については、蒼虬が『花供養』の最後に発句のみ入集しているが、千崖が『花供養』の巻頭興行の亭主（脇句）を務めており、千崖の主催である。

## 3 体裁

『花供養』は、すべて半紙本の袋綴で刊行された。表紙の色および模様については年によって異なるが、これらについては『花供養』書誌一覧表に記さなかった。

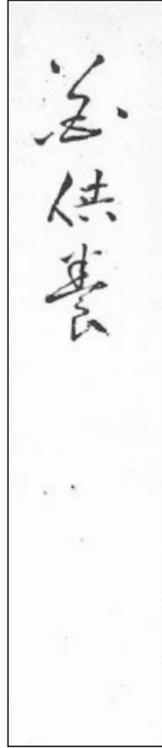
題簽には、題簽一覧図のように書体の異なる八種類（詳細には十種類）がある。闌更は、当初A・B・C・Dと年毎に題簽の書体を変えていたが、寛政三年から様式をEに変え、以後は継続した。蒼虬は、闌更の用いた題簽Eを継承するが、文政十一年からGに変更し、以後継続する。Gは、千崖・朝陽・九起・良大へと引き継がれた。ただし、得終尼が関わった文化十三年版のみはFになり、書肆もこの年のみは菊舎太兵衛（其篤）である。また、芭蕉百五十回忌の天保

〈題簽一覽〉 (書誌一覽表凡例参照。以下同。)

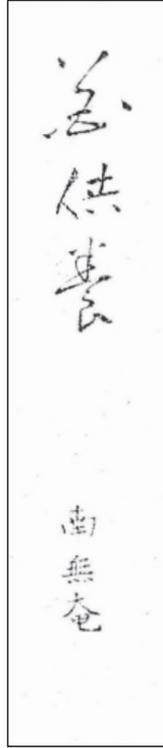
A 天明六年(白鹿)



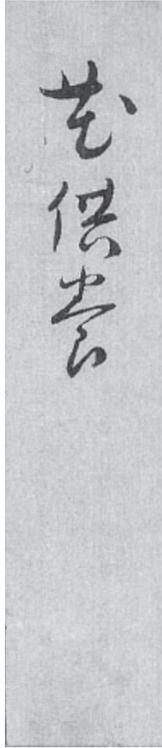
B 1 天明七年「花供養」(愛知県大)



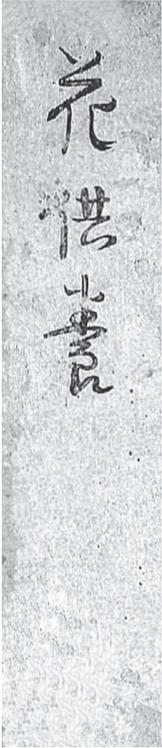
B 2 天明七年「花供養」南無庵(綿屋)



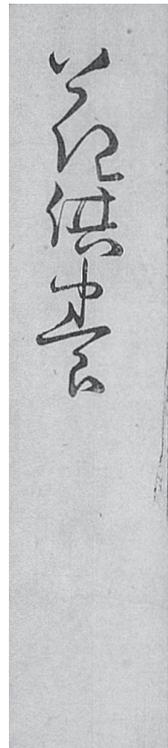
C 寛政元年(桜井)



D 寛政二年(月明)



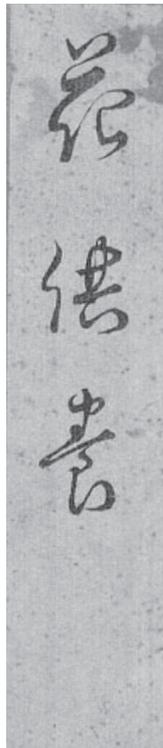
E 寛政三年以降 文化九年(石川歴博)



F 文化十三年(武蔵野)



G 文政十一年以降 天保四年(立教)



H 1 天保十四年(芭蕉百五十回忌)上(立教)



H 2 天保十四年(芭蕉百五十回忌)下(立教)



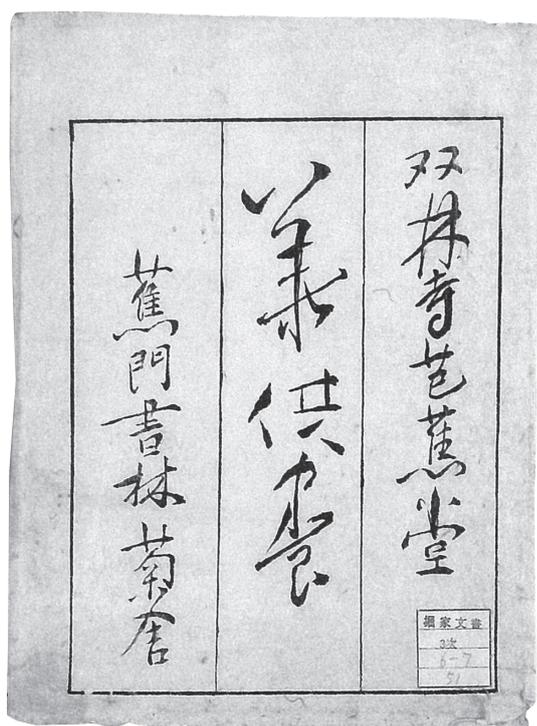
十四年版のみがHである。

内題は、天明六年版に「丙午花供養」とあるのみである。

『花供養』の丁数は、寛政元年版の十丁が最も少なく、天保十四年版芭蕉百五十回忌の百九丁が最も大部である。天明六年から寛政三年までは二十丁前後の小冊である。寛政四年からの数年間は芭蕉百回忌（寛政五年）の影響から増加していき、さらに、天保期以後は六十丁前後へと増加する。

端作りは、寛政元年版「寛政元酉年三月十二日於南無庵興行」と、天保十四年以降に「天保十五年甲辰三月十二日花供養会」などである。

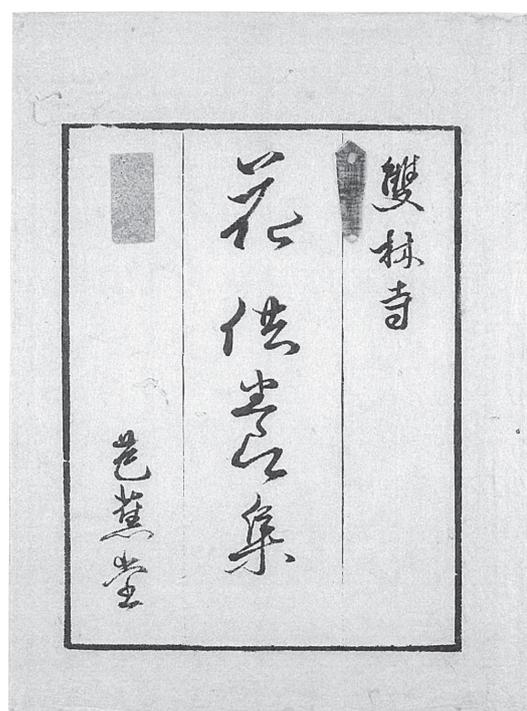
袋は、①菊舎太兵衛（其成）版・②芭蕉堂版・③芭蕉百五十回忌版の三種類が知られる。『花供養』袋一覧を示す。



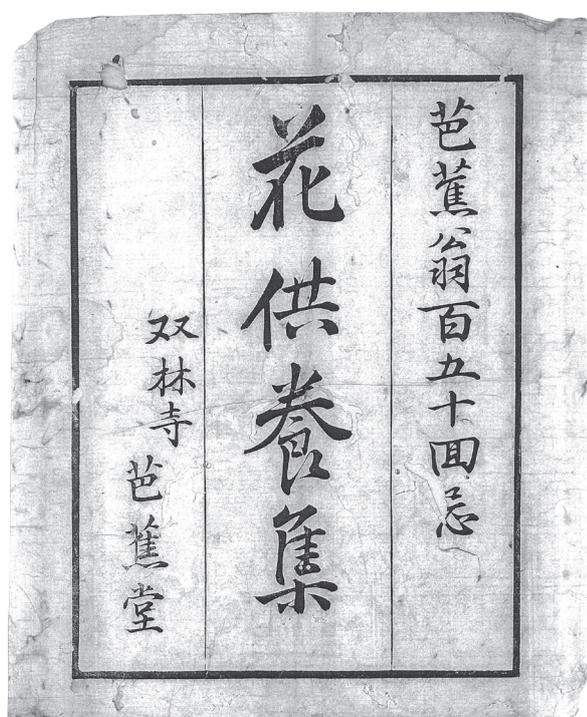
①「蕉門書林菊舎」版袋（寛政三年 堀家）

天明六年から寛政七年までは、書林菊舎（太兵衛）の出版であり、同期間中に使用されたものと推察される。

②「芭蕉堂」版袋（元治元年 小林）



③「芭蕉翁百五十回忌」版袋（天保十四年 月明）



寛政八年から芭蕉堂の蔵板となり、以後継続したものと推察される。なお、左肩に贈呈先の名前を記す付箋があり、一行目と二行目の間には熨斗がある。

『花供養』の出版に関わった版元等は、刊記によれば、蕉門俳諧書林 菊舎太兵衛（其成）、「芭蕉堂蔵板」、書林 桃林堂 勝田喜右衛門、芭蕉堂書林 橘栄堂 勝田善助、蕉門俳諧書林 菊舎太兵衛（其篤）、御摺物所 湖月堂 菊屋平兵衛、蕉門御摺物所 湖雲堂 近江屋利助がある。次に、単独の刊行や二軒の刊行などを区別せずに刊記を一覧する。

- 蕉門俳諧書林 菊舎太兵衛（其成）——天明六年・同七年・寛政元年～同七年
- 「芭蕉堂蔵板」——寛政八年～同十一年
- 書林 桃林堂 勝田喜右衛門——寛政十一年・享和元年～文化二年
- 芭蕉堂書林 橘栄堂 勝田善助——享和三年～文化四年・同六年・同九年
- 蕉門俳諧書林 菊舎太兵衛（其篤）——文化十三年
- 御摺物所 湖月堂 菊屋平兵衛——天保元年・同三年～同五年・天保十年・同十一年・同十四年・弘化二年・同四年・嘉永三年
- 蕉門御摺物所 湖雲堂 近江屋利助——天保十三年・弘化元年・同三年・嘉永二年・同六年・安政元年・同五年・同六年
- 未詳（無刊記）——文政十一年・天保十二年・安政三年・同四年・万延元年～慶応三年・明治三年

菊舎太兵衛（其成）は単独刊行。寛政八年に「芭蕉堂蔵板」となり、刊記に菊舎太兵衛（其成）の名が見えなくなる。寛政十一年、蒼虬に引き継がれると、書肆勝田喜右衛門を用い、さらに享和三年から同族と推察される書肆勝田善助が加わり、二書肆の協調関係が生じる。文化三年から同九年までは、勝田善助

の単独刊行となる。その後、文化十三年のみ菊舎太兵衛（其篤）が参入する。その後、天保元年からは摺物所の湖月堂菊屋平兵衛になる。これはさらに朝陽に引き継がれ、九起に代替わりした天保十三年からは、摺物所の湖雲堂近江屋利助が加わり、九起主催の書冊はこの二摺物所が交互に単独で担当するに至る。安政三年以降、公成に引き継がれてからは、無刊記となるが、安政五・六年のみ近江屋利助の名が見える。以上のように花供養会の主催者によって書林・摺物所が変わり、なかでも蒼虬時代の変更が最も大きい。なお、安政四・五年にのみ「池田要人書」の奥書がある。

## 5 構成

『花供養』の構成は概ね、序文・巻頭俳諧興行・諸国奉納発句および連句・巻頭俳諧興行連中の発句・跋文・刊記からなる。巻頭俳諧興行・諸国奉納発句・巻頭俳諧興行連中の発句の構成は、義仲寺『しぐれ会』に倣うもので、『しぐれ会』の影響を受けたものである。蒼虬以降の堂主は様々に工夫し発展させ大部な書冊としていくが、基本の巻頭俳諧興行・諸国奉納発句の構成は崩していない。『花供養』には序文を入れることを原則とし、跋文は無いことが多い。『花供養』の序文の多くは、地方の俳諧作者の執筆である。

句の内容については、芭蕉追善の性格を持つが、「花供養」と言いながら花の句に限定する傾向が次第に弱くなり、花の句以外の春や四季折々の句が散見される。

『花供養』の入集地域を概観すると、京・大坂、その周辺の近江・播磨・丹波が多く、すべての書冊に共通している。それらの地域に次いで、山陽道・西海道・南海道・北陸道も多い。また、山陰道・東海道・東山道・蝦夷・函館・吉岐・対馬・朝鮮国からの入集も確認される。このように『花供養』の入集状況は、およそ全国を網羅していると言える。

なお、本研究会では、『花供養』全作品の翻刻作業を継続して行っており、その本文の一部は、二〇〇九年度末までに、アート・リサーチセンターのWEBサイトで公開の予定である。

## 『花供養』書誌一覧表

## 凡例

- 一 本表は、『花供養』の書誌一覧である。  
 一 本表は、使用の便を考慮して通し番号を付した。なお、○印は、現時点では版本の有無が確認できない年である。  
 一 ※印は、題簽に「花供養」とあるものである。A以下のアルファベットは、『花供養』〈題簽一覧〉(本稿126頁)に付した記号である。  
 一 丁数は、底本とした裏表紙見返しに刊記がある場合は一丁として数えた。遊紙のある書冊はない。  
 一 底本等の略記は、以下のとおりである。

愛知県大 愛知県立大学附属図書館蔵本  
 石川歴博 石川県立歴史博物館蔵本  
 糸井 京都府舞鶴市郷土資料館糸井文庫蔵本  
 柿衛 柿衛文庫蔵本  
 月明 石川県立図書館月明文庫蔵本

- 小林 小林孔蔵本  
 桜井 立命館大学アート・リサーチセンター桜井武次郎旧蔵本  
 三康 三康図書館蔵本  
 竹冷 東京大学附属図書館竹冷文庫蔵本  
 白鹿 兵庫県西宮市笹部桜コレクションー白鹿記念酒造博物館寄託蔵本  
 弘前 弘前市立弘前図書館石見文庫蔵本  
 堀家 京都府城陽市立歴史民俗資料館堀家マイクログ資料(堀家蔵本)  
 武蔵野 武蔵野大学附属図書館前田利治旧蔵本  
 綿屋 天理大学附属天理図書館綿屋文庫蔵本  
 立教 立教大学附属図書館蔵本
- 一 袋の現存するものは、備考欄に『花供養』袋一覽(本稿●頁)の番号を記した。  
 一 備考欄には、袋の残存状況の他、芭蕉堂堂主の動向・翻刻資料の参考となるものなどを記した。

通し 番号	年次	外題・内題端作り	編者	序文	巻頭発句 脇	跋文 *奥付	刊記	丁数	底本	備考
1	天明六年	※A 丙午花供養(内)	闌更	なし	闌更 渭川	なし	蕉門書林 菊舎太兵衛 京三条通御幸町西エ入丁	14	糸井	
2	天明七年	※B1 ※B2	闌更	天明丁未春 芭蕉堂社中	闌更 略	なし	蕉門書林 菊舎太兵衛 京三条通御幸町西エ入町	17	愛知県大 (題簽 B2綿屋)	
3	寛政元年	※C 寛政元酉年三月 十二日於南無庵 興行(端)	闌更	なし	蘆涯 闌更	なし	蕉門書林 菊舎太兵衛 京三条御幸町西エ入ル	10	桜井	本文追加有り。
4	寛政二年	※D(月明)	闌更	寛政二・戊とし(無署名)	羅水 闌更	なし *寛政 庚戌年春二月	蕉門書林 菊舎太兵衛 京三条通御幸町西	25	愛知 県大	諸本追加異同有り。
○ 天明八年										

○ 文化十年	22	文化八年 文化九年	※ E	蒼虬	文化壬申六月 芙九	蕪巾 蒼虬	文化九年壬申 篤老	芭蕉堂書林 勝田善助 烏丸下立売上ル町	47	糸井	
	○ 文化七年	21	文化六年	※ E	蒼虬	文化むつつの春三月 鳩の屋文常	素人 蒼虬	芭蕉堂書林 勝田善助 烏丸下立売上ル町	37	石川 歴博	
○ 文化五年	20	文化四年	※ E	蒼虬	文化四卯春三月 伯陽応響舎沾雪	恕裕 蒼虬	なし	芭蕉堂書林 勝田善助 京都烏丸下立売上	46	竹冷	
	19	文化三年	※ E	蒼虬	文化三年とらの弥生 志宇	阿年 蒼虬	なし	書林 橘栄堂 勝田善助 京都烏丸下立売上	48	糸井	
18	文化二年	※ E	蒼虬	湖西白鷗居千賀雄 の二日	乙都留 蒼虬	なし	京都書林 勝田喜右衛門 御幸町錦小路上ル町 勝田善助 烏丸通下立売上ル町	36	月明		
	17	文化元年	※ E	蒼虬	文化紀元甲子春 執古堂葦笠	武陵 蒼虬	なし	京都書林 桃林堂 勝田喜右衛門 御幸町錦小路上 橘栄堂 勝田善助 烏丸下立売上	25	綿屋	
16	享和三年	※ E (推定)	蒼虬	享和三のとしやよひなかば 西湖素人	葦笠 蒼虬	なし	京都書林 勝田喜右衛門 御幸町錦小路上ル町 勝田善助 烏丸通下立売上ル町	24	弘前		
15	享和二年	※ E	蒼虬	享和二年壬戌春 なにはの米彦	岱李 蒼虬	田禾	書林 勝田喜右衛門 京御幸町錦小路上ル	30	弘前		
14	享和元年	※ E	蒼虬	可董	百池 蒼虬	享和元年春 友国	書林 勝田喜右衛門 京御幸町錦小路上ル	28	桜井		
○ 寛政十二年	13	寛政十一年	※ E	蒼虬	寛政末の春 瑞馬	蒼虬 鹿古	なし	洛東 芭蕉堂蔵板 書林 勝田喜右衛門 京四条通河原町西へ入丁	33	白鹿	
	12	寛政十年	※ E	闌吏	能浦黒島獅子窟玻井	蜃洲 闌吏	なし	芭蕉堂蔵板	40	月明	闌吏 寛政十年五月三日没。
	11	寛政九年	※ E	闌吏	伏水 あし丸	百池 闌吏	なし	洛東 芭蕉堂蔵板	42	小林	
	10	寛政八年	※ E	闌吏	加賀蒼虬	兔仙 闌吏	なし	洛東 芭蕉堂蔵板	67	白鹿	
	9	寛政七年	※ E	闌吏	寛政乙卯三月 平安 大栄堂百池	蜃洲 闌吏	日野の淇竹	蕉門書林 菊舎太兵衛 京三条通寺町西	49	白鹿	一茶全集に翻刻掲載
	8	寛政六年	※ E	闌吏	寛政むつとらのとし 竹堂主人	斗流 闌吏	*なし *寛政六甲寅三月	蕉門俳諧書林 菊舎太兵衛 京三条通寺町西入	45	小林	諸本追加異同有り。 堀家本袋①
	7	寛政五年	※ E	闌吏	四山亭幡水	幡水 闌吏	なし	御俳諧書林 菊舎太兵衛 京三条通寺町西	49	白鹿	
	6	寛政四年	※ E	闌吏	寛政よつとのとし 山亭	山亭 闌吏	なし	蕉門書林 菊舎太兵衛 京三条通寺町西エ入丁	40	月明	
	5	寛政三年	※ E	闌吏	寛政亥の年弥生中の二日 可能	清秋 闌吏	*蘆漕 *寛政三辛亥三月	蕉門書林 菊舎太兵衛 京三条通寺町西入丁	26	月明	堀家本袋①

36	35	34	33	32	31	30	29	○	28	27	26	○	25	○	24	○	23
弘化三年	弘化二年	弘化元年	天保十四年	天保十三年	天保十二年	天保十一年	天保十年	天保六年～同九年	天保五年	天保四年	天保三年	天保二年	天保元年	文政十二年	文政十一年	文化十四年・文政元年～同十年	文化十一年 文化十二年 文化十三年
※G 月十二日花供養 俳諧(端)	※G 月十二日花供養 会(端)	※G 三月十五日甲辰 養会(端)	※H1・2 芭蕉翁百五十回 忌法筵於洛東門 山安養寺端之寮 天保癸卯春三月 十二日正式俳諧 (端)	※G	※G	※G	※G		※G	※G	※G	※G	※G	※G	※G	※F	※F
九起	九起	九起	九起	九起	九起	朝陽	朝陽		蒼虬	蒼虬	千崖	蒼虬	蒼虬	蒼虬	蒼虬	蒼虬	蒼虬
丙午春 加州我柳	伯耆 田中乙美	保辰晩春 湖南信楽鷺洲/ 天保十五年甲辰 越那古 松清堂子適	能登正院 春藤鳳兮齋/ 備岡山 半化堂孤山/ 吉備笠岡 塚本淡亭/ 播陽 水音室霞村/ 防州宝積 婦岫庵閑雲/ 大村藩 金谷福田賢	天保壬寅春 西湖山川楚蕉	山陰 九華	備陽 一亭改志郎	天保十亥年三月太室		天保五年午晩春 竹酔叟太老	天保四年癸巳春 西湖北馬	天保三年壬辰晩春 湖東里童	文政庚寅の暮春 楽齋	文政戊子晩冬 ちぬの浦擔鷗			文化丙子晩春中二日 久留米芦月	
竹月 九起	和鳴 九起	鳳兮 九起	翁 九起	鷺洲 九起	赤鱗 九起	香雪 朝陽	志可寿 朝陽		霞柳 蒼虬	芹舎 蒼虬	麦洋 千崖	芳英 蒼虬	儼草 蒼虬		杜蓼 蒼虬 金菜 得終 文常 蒼虬 十壺 千崖		
なし	なし	なし	吉備笠岡 片家史也	なし	なし	*なし *天保十一年己亥春	*なし *天保十年己亥春		なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
御すり物師 近江屋利助 京四条寺町東へ入	御摺物所 菊屋平兵衛 京東洞院仏光寺上ル	御すり物師 近江屋利助 京四条寺町東へ入	御摺物所 菊屋平兵衛 京東洞院仏光寺上ル	御摺物細工所 近江屋利助 京四条通寺町東へ入	無刊記	御摺物所 菊屋平兵衛 京東洞院仏光寺上ル	御摺物所湖月堂 菊屋平兵衛 京東洞院通仏光寺上ル町		御摺物所 菊屋平兵衛 京東洞院仏光寺上ル	御摺物所湖月堂 菊屋平兵衛 京東洞院通仏光寺上ル町	御摺物所湖月堂 菊屋平兵衛 京東洞院通仏光寺上ル町	御摺物所湖月堂 菊屋平兵衛 京東洞院通仏光寺上ル町	御摺物所湖月堂 菊屋平兵衛 京東洞院通仏光寺上ル町	無刊記	蕉門俳諧書林 菊舎太兵衛 京三条魅屋町東エ入		
72	76	60	109	73	61	51	39		57	57	53	45	27	47			
白鹿	桜井	月明	立教	桜井	桜井	立教	白鹿		白鹿	糸井	糸井	白鹿	白鹿	白鹿			
	諸本追加異同有り		諸本序文異同有り。 月明本袋③			諸本追加異同有り。 立教大本袋②					蒼虬は発句のみ入集			文化十一年は得終主権。 同十二年は蒼虬千崖主権。 書林菊舎は三世其篤。 諸本追加異同有り。			

46	45	44	43	42	○ 安政二年	41	40	○ 嘉永四年・嘉永五年	39	38	37
万延元年	安政六年	安政五年	安政四年	安政三年		安政元年	嘉永六年		嘉永三年	嘉永元年 嘉永二年	弘化四年
※G 安政七年庚申三月十二日花供養会(端)	※G(柿衛) 安政六年己未三月十二日花供養会(端)	※G 安政五年戊午三月十二日花供養会(端)	※G 安政四年丁巳三月十二日花供養会(端)	※G 安政三年丙辰三月十二日花供養会(端)		※G 嘉永七年甲寅三月十二日花供養会(端)	※G 嘉永六年癸丑三月十二日花供養会(端)		※G 嘉永三庚戌三月十二日花供養俳諧(端)	※G 嘉永元年戊申三月十二日花供養俳諧(端)	※G 弘化四歳丁未三月十二日花供養俳諧(端)
公成	公成	公成	公成	公成		公成	公成		九起	九起	九起
庚申晩春 周防玉櫛の浜口 畹玉堂 笠水	安政己未春 司水	時政午春 平安何羨	安政四年暮春 篠山 門生土常薫浴	安政三年丙辰晩春 大隅 太素		嘉永七年寅三月 芳麓 可樵	嘉永むつ丑の弥生 播磨 朗霞古谷		肥後 雪茶	平安 丘花園	城南 時少蒼老波
謝風 公成	竹仙 公成	如九 公成	梅城 公成	梅甘 公成		北梅 公成	可樵 公成		醉茶 九起	聽洋 九起 千干 九起	子邁 九起
なし	なし	なし *池田要人書	なし *故東籬亭三男池田要人書	なし		なし	なし		なし	なし	なし
無刊記	蕉門御摺物所 湖雲堂 近江屋利助 京四条寺町東へ入御旅町	蕉門御摺物所 湖雲堂 近江屋利助 京四条寺町東へ入御旅町	無刊記	無刊記		御集冊すり物師 湖雲堂 近江屋利助 皇都四条通寺町東へ入南側	御すり物師 近江屋利助 京四条寺町東へ入		御摺物細工所 菊屋平兵衛 京東洞院仏光寺上ル	御すり物師 近江屋利助 京四条寺町東へ入	御摺物細工所 菊屋平兵衛 京東洞院仏光寺上ル
61	62	54	56	61		59	63		40	69	68
桜井	月明	白鹿	三康	白鹿		月明	小林		立教	白鹿	小林
				諸本追加異同有り		立教大二康本袋②	立教大本袋②		立教大本袋②	立教大本袋②	

54	明治元年	53	52	51	50	49	48	47
明治二年興行 明治三年序 会(端)	※G 明治二年己巳弥 生十二日花供養 会(端)	※G 慶応三年丁卯三 月十二日花供養 会(端)	※G 慶応二年丙寅三 月十二日(端)	※G 元治二年乙丑三 月十二日(端)	※G 元治元年甲子三 月十二日(端)	※G 文久三年癸亥三 月十二日花供養 会(端)	※G 文久二年壬戌三 月十二日花供養 会(端)	※G 文久元年辛酉三 月十二日花供養 会(端)
良大	公成	公成	公成	公成	公成	公成	公成	公成
明治庚午春 岡盟叟梅裡/ 松が崎の松葉搔 素兄	慶応三年丁卯春月 江戸龍尾園 香城/ 丁卯春日 平安眼医仙心	慶応二丙寅年季春 皇都 喜寿翁浮藤生眼一 乗	丑の弥生 素知園春松	元治元年弥生なかば 素酔	与謝人 梅溪棟田氏	福原 簾卜二秋庵	客雲山人石友	
翁 良大	香城 公成	錦水 公成	松声 公成	宇甲 公成	山士 公成	鶴巢 公成	黍丘 公成	
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
無刊記	無刊記	無刊記	無刊記	無刊記	無刊記	無刊記	無刊記	
45	50	41	44	38	43	44	48	
桜井	桜井	白鹿	桜井	小林	糸井	桜井	白鹿	
紅葉供養あり。 『花洛名勝発句集』広告 付。別紙花供養募句ち らし付。	別紙公成の挨拶文付			小林本袋② 若葉会興行有り。	三康本袋②	綿屋本袋②		

〔参考文献〕

桜井武次郎「花供養」(大阪俳文学研究会「会報」三十八号・平成十六年)

〔付記〕

調査にあたり、各図書館・文庫のお世話になりました。記して深謝申し上げます。

備考  
明治15年3月 九起没  
明治25年9月14日 良大没